

教科シラバス (地理歴史科 世界史A 文系)

科目名	学年	使用教材	【教科書】 山川出版社『要説世界史 改訂版』
世界史A	2		【副教材】 第一学習社『グローバルワイド最新世界史図表 三訂版』
単位数 (3)	必修 · 選択		啓隆社『新世界史研究ノート 応用編』

【学習目標】

近現代史を中心とする世界の歴史を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ、現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

【学習方法】

- ア. 授業の予習として、教科書を2~3ページ程度読み、資料集等の該当部分に目を通しておく。
- イ. 教科書の文章で、読みの分からない漢字、意味の分からない語句があれば、必ずその都度辞書をひいて調べるよう自ら習慣づける。
- ウ. 授業中は、ノートやワークシートに記録をとり、教科書、資料集の重要箇所に下線を引く。
- エ. 授業後は、復習を繰り返し行い、知識の定着を図る。
- オ. 3年次の学習及びセンター試験につなげるために、ノートを自分に合った形で整理・復習する。

【学習評価】

次の4観点に基づき、学習内容のまとめ（定期考査までの学習範囲）ごとに下の評価項目により学期毎に評価（評価点）を行い、年間総合の評価は5段階の評定で総括します。				
①関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史の大きな流れと枠組みに関心や問題意識を持っているか。また、意欲的に学習に取り組み、民主的・平和的な国家・社会を形成していくことや他国・他地域と協調関係を築いていくことに関心・意欲を持っているか。			
②思考・判断	近現代史を中心とする世界の歴史の知識を踏まえ、人類の課題をさまざまな視点から考え、調べ、明らかにしているか。また、読み取った資料について自ら考え、判断しているか。			
③技能・表現	近現代史を中心とする世界の歴史を理解するための資料を、適切に読み取ることができているか。また、それらを的確に表現できているか。			
④知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史を理解するための基礎的な知識が身についているか。また、近現代史を中心とする世界の歴史を、我が国の歴史と関連付けながら理解できているか。			
評価方法／観点	①	②	③	④
授業態度・出席状況	◎			自己評価の実施
ノート・ワークシート	◎	○	○	定期的な提出
課題・レポート	○	◎	◎	○
定期考査	○	○	○	◎
	定期考査 (年5回)			

【学習アドバイス】

- 新聞やTVのニュースに積極的に触れるようにしてください。現在起きている事象と歴史的事象とのつながりが見えてきて、学習意欲が格段に高まるはずです。
- 世界史の知識は社会人の教養として大切です。地理・日本史や倫理・政経との関連も出てくるので積極的に学習してください。

【年間学習計画】 注：6月以降については状況により大幅な変更の可能性があります。

月	学習内容(単元)	学習のねらい	学習活動(評価方法)
4	序章 古代文明の形成 第1章 諸地域世界の形成と交流 第2章 結びつく世界	諸地域世界が形成されていく過程を地理的条件と関連させながら学び、近現代史を考察していく基礎的知識を身に付ける。	○ワークシート
5	2 近世ヨーロッパの形成と発展 第3章 ヨーロッパ・アメリカの工業化と国民形成	アジアの諸帝国の繁栄およびヨーロッパの国々の海外進出を学び、世界の一体化について考察する。	
6	1 革命の時代の到来	市民革命が起きた背景やその結果を考察し、現在とのつながりについて探求する。	○期末考査 ○夏休み課題
7			
9	2 自由主義と国民主義の進展 第4章 アジア諸国の変貌 1 オスマン帝国の動搖と民族の自覚	ヨーロッパの繁栄の中で、アジアの国々がおかれた状況について学び、後世に与えた影響や当時の日本との関係を考察する。	○課題考査 ○ワークシート ○単元毎の小テスト
10	2 南アジア・東南アジアの植民地化 3 東アジアの変容と日本の動向 第5章 世界戦争と平和		○中間考査
11			
12	1 帝国主義の成立と列強の情勢 2 世界分割とアジア・アフリカ 3 二つの世界大戦とその影響	帝国主義の拡大により引き起こされた2つ世界大戦を考察し、歴史的意義を考える。	○期末考査 ○冬休み課題
1	第6章 三つの世界の形成 1 冷戦期の世界と日本 2 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの自立と課題	第2次世界大戦後の秩序について多角的に考察し、日本の立場について考える。	○課題考査 ○ワークシート ○単元毎の小テスト
2	3 米ソ両大国の動搖 第7章 グローバル化する世界 1 大国の動搖と国際経済の危機	冷戦終結後のグローバル化する社会において新たに表面化してきた諸課題を考察し、国際社会に主体的に生きる1人としての自覚と資質を養う。	○学年末考査
3	2 社会主義の後退と冷戦の終結 3 グローバル化と多極化 4 地球社会への歩み		

【その他】

- <定期考査対策について>
- 定期考査の学習においては、教科書・ノートのほか、「新世界史研究ノート（応用編）」を十分に活用して、学習した内容を頭にいれてしまってください。考査もそれから出題します。
- まず、教科書・資料集を熟読し、ノートを整理しましょう。「新世界史研究ノート（応用編）」や授業ノート、ワークシートなどは考査前後に点検します。
- 考査後は不正解の問題を資料集などで復習し、二度と間違えないようにしてください。
- 授業内容を丁寧に定着させていくことが模擬試験対策となっていました。少しづつでいいのでコツコツと取り組んでください。

